

関係機関訪問第4弾

帯広近郊就労系障がい福祉サービス
事業所への聞き取り調査をスタートしました！



令和2年7月30日（木）
音更町
ディセンターばんせい
地域サポートセンターえがお
社会福祉法人更葉園
クローバーリー

ディセンターばんせい（B型）

今回の訪問では、ディセンターばんせいの活動のみならず、晩成学園が障がいをお持ちの方やご家族のニーズに寄り添いながら事業展開を行ってきた経緯や、現在の法制度により支援のすみわけをせざるを得ない状況など、就労支援に必要なことを改めて考える機会をいただきました。その中で、グループホームに入居している約100名のうち半数の方が一般就労をされており、その方たちを障がい者総合支援法以前から運営されていた通勤寮の様な支援でサポートし就労を支える土壌があることを伺いました。事業所の大きな柱となるソーセージの加工作業がコロナウイルスによる活動の制限により販売の減少が見られた中で、重度・高齢化による作業量の低下などの課題が見られている経過についてもお聞きしました。



所長の矢代さん（右）・
支援係長の西島さん
（左）にお話を伺いました

地域サポートセンターえがお（B型）

就労継続支援B型事業を立ち上げ、徐々に利用者さんが増えてきたということです。もともとは、重度訪問介護や、音更町では唯一の医療的ケア児の対応などに取り組み、法制度が十分ではなかった分野に働きかけを行いつつ、現在に至ったという経緯を佐々木理事長にもご対応いただき、伺うことができました。その様な中、利用されている方や地域ニーズから次のステップを考えB型立ち上げに至ったとのこと。就労支援を開始し、対応や支援のノウハウには戸惑いもあるとのことでしたが、今後、研修や自立支援協議会への参加などを通して、支援力の向上を図りたいという考えをお聞きしました。



理事長の佐々木さん、課長の
小山さん（左）、職業指導
員の鈴木さん（右）
にお話を伺いました

社会福祉法人更葉園（多機能型）

現在、A型・B型・移行(休止中)・生活介護・入所の事業を行う、音更町の地域に根ざした歴史のある事業所です。もともと身体障がいをお持ちの方が多く利用されていた経緯がありましたが、現在は知的障がい・精神障がいをお持ちの方の利用が増えている様です。また、利用者層にも近年変化があり、より重度化・高齢化が進み、若年で就労を目指している方の利用が少なくなっている経過もある中で、対応できる作業にも変化が見られ、軽作業など対応できるものを確保する必要に迫られているとのことでした。そのため、対応のスキルを学ぶことが必要と考えながらも、支援員の人員不足で課題に対応できないジレンマを伺いました。人材不足は全国的にも様々な分野で大きな課題ではありますが、十勝の福祉業界から聞く声も深刻な問題と感じました。



せせらぎ・きらぼしの施設長
宮部さん（右）とおとわ施
設長の藤田さん（左）
にお話を伺いました

クローバーベリー（B型）

クローバーベリーでは、コロナウイルス感染予防への対策として、一早く透明プラスチックによるついたてを取り付け、活動を維持させていたということでした。元大工の利用者の方がいるとのことで、手作りとは思えない出来栄と徹底した設置には驚きました。また、利用時間短縮により減少した工賃に対し、企業努力で補填を行うなど、利用されている皆さんへの気遣いを随所を感じる話し合いとなりました。

現在利用されている方は、将来の就労に向けた第1歩として、クローバーベリーに通われている方が多いようで、主な紹介経路は役場や相談支援事業所があげられる様です。

また、B型の次のステップとして移行支援へ利用を進めるケースもあり、就労に向かう道筋を作っているとお話もありました。



統括所長の橋本さん
（右）・サービス管理責任者の北山さん（左）
にお話を伺いました

今回は、音更町に伺いました。今後も市内やその周辺町村の事業所訪問を進めて参りますので、よろしくお願いいたします